

平成30年度 名古屋大学総長顕彰授与式が行われました

平成31年3月25日（月）豊田講堂第一会議室にて



総長顕彰委員会

木俣委員長（学生支援担当・副総長）

鈴木委員（法学部長）、福澤委員（経済学部長）、門松委員（医学部長）、水谷委員（工学部長）、竹中委員（アイソトープセンター長）、岡本委員（生協理事長）

本顕彰に係る募集は、各部局への募集要項等送付、ポスター、ホームページ及び電子掲示板等を通じて、平成30年12月3日（月）～平成31年1月18日（金）の間に行われ、その結果、「学修への取り組み」部門に9件の学部推薦が、「正課外活動への取り組み」部門に13件の応募があった。

これら合計22件の推薦・応募について、総長顕彰委員会による厳正な審査及び合議を経て、最終的に13名（団体代表を含む）の学生を平成30年度総長顕彰として表彰することを決定した。

学修への取り組み 部門 受賞者		
	文学部 人文学科 4年	貫名 琴音
	教育学部 人間発達科学科 4年	島袋 海理
	法学部 法律・政治学科 4年	OCHIRKHUYAG SODCHIMEG
	経済学部 経営学科 4年	牧野 恵美
	情報文化学部 自然情報学科 4年	山田 明里
	理学部 化学科 4年	中島 弘瑛
	医学部 医学科 6年	内藤 裕
	工学部 電気電子情報工学科 4年	西尾 祐哉
	農学部 応用生命科学科 4年	小島 なつみ

正課外活動への取り組み 部門 受賞者		
	工学研究科 土木工学専攻 博士前期課程2年	岩田 祥子
	名古屋大学電情組	茅野 敬介
	留学生・国際交流支援学生団体ヘルプデスク	嶋田 耕太郎
	工学部 マテリアル工学科 2年	國枝 真衣

学修への取り組み 部門 受賞者 受賞者のことば・講評

貫名 琴音 文学部 人文学科 4年

歴史の学びを生かした実践を目指して

私は、一つ一つの授業に、予習を欠かさず真摯に向き合う姿勢を何より大切にしました。高校生の時分より志した専攻分野（西洋史学）の探求には史料や研究書等の外国語文献を読み解くことが必要不可欠であったため、4年間辞書を肌身離さず持ち歩き、外国語の学習に力を入れました。卒業論文では、日本に類似の研究が少ない、16世紀のフランス宮廷における舞踏文化とその背景となる政治的意図との関係性を明らかにすべく、多くの文献や史料から分析・考察を行いました。また、昨今の女性の活躍を求める声やジェンダーについての意識の高まりの中で、名古屋大学でも西洋史における女性の権利拡大の通史や女性達が活躍した歴史などに触れる機会が多くありまし

た。過去の課題を自らの課題との関係で捉える学びの経験を生かし、4月からは一人の社会人として、社会で活躍する女性のロールモデルとなることを次の目標に掲げ、社会に貢献できるよう努めて参ります。

講評：大学の様々な授業に積極的かつ主体的に参加し、とくに外国語の勉強に力を入れた。英語やフランス語を駆使して多くの文献や史料を渉猟し、多大な労力と時間を傾注して、16世紀フランス史に関する素晴らしい内容の卒業論文を書き上げた。真摯で粘り強い勉学・研究に対する姿勢により、文学部4年生全体のなかでGPAが第1位という傑出した学業成績を残し、他の学生や後輩にとって見習うべきロールモデルとなっている。今後も、社会人として、さらなる活躍が期待される。

島袋海理 教育学部 人間発達科学科 4年

自分の主体性が評価される学問の世界

私は沖縄本島の田舎で生まれ育ち、陸の孤島という地理的制約や田舎のもつ閉鎖性ゆえに、それまで主体性をもってさまざまな方面への関心を掘り下げることができませんでした。しかし、名古屋大学に進学し、それぞれの研究領域において第一線で活躍される先生方の授業を多く受けてきたことで、それまで我慢してきたさまざまな研究領域への関心を解放し、主体性をもってさまざまな活動に取り組んでいくことができました。学問の世界では、自分の主体性がまっすぐに評価されまです。それゆえ私は、教育学という学問の垣根や学部生という制約を越えた研究活動を展開していくことができました。特に私の研究関心を貫く重要なテーマとして、ジェンダー・セクシュアリティの問題がありました。卒業論文では、このうち性的マイノリティのアイデンティティをめぐる問題を扱いました。この先は大学院に進学し、この問題についてさらに研究を進めていきます。

講評：ジェンダーに関する卒業論文では、フィールドワークに積極的に取り組み、審査で極めて高く評価された。授業の成績が大変良好であるだけでなく、様々な活動にも取り組んだ。インドネシアで高校生のジェンダー意識を調査し、その成果を英語で発表した。また、大学院進学を見据え、読書会等の自主的な勉強会を主催して研究の基礎文献を読解し、学会など様々な機会に参加し、情報収集やネットワーク構築に努めてきた。今後も意欲的な姿勢で研究に取り組むことが期待される。

OCHIRKHUYAG SODCHIMEG 法学部 法律・政治学科 4年

家庭内暴力被害者のために

私は4年前、家庭内暴力被害者のために働きたいと考え、法学部に入学しました。この目標を達成するために私は次の三点に取り組んできました。

第一に、物事を多方面から捉える能力を養うために法律科目だけでなく政治科目も履修したことです。そして、ほとんど欠席をせず積極的に講義に参加してきました。

第二に、2年生から原田綾子先生のゼミに入り、「子供と法」をテーマに様々な課題に対して研究を行い、研究の仕方を学んだことです。

第三に、卒業論文を執筆したことです。モンゴルにおける先行研究や情報が少ない中、自らフィールドワークを行い、モンゴルにおける暴力被害者シェルターの現状と課題について日本との比較の視点から検討しました。その結果、法学部より卒業論文優秀賞をいただくことができました。

私の卒業後の目標は、母国において学んだことを活かし、最終的にはモンゴルだけでなく世界中の暴力に苦しむ人々のために働くことです。

講評：優秀な学業成績を達成しただけでなく、積極的で真摯な学修姿勢でも際立ち、他の学生の手本となる存在であった。卒業論文では、モンゴル赤十字社でのインターンシップの経験から、モンゴルにおけるDV被害に関する研究に熱心に取り組み、優れた成果を挙げた。何事にも真摯に取り組み、努力を惜しまない姿勢により、日本語能力も極めて高く、文献の読解力や論理的思考力は、多くの日本人学生よりも優れている、さらに成長し、国際社会に貢献する人材となることが期待される。

牧野 恵美 経済学部 経営学科 4年

挑戦する気概を持ち続ける

私は有意義な大学生活を送るために、多くのことに果敢に挑戦してきました。

1番は学生の本分である勉学です。講義に毎回出席するのはもちろん、名古屋大学学生論文コンテスト、グローバル人材育成プログラムの活動、ビジネスプランコンテストなど自ら高い壁を作り主体的に取り組みました。

学習分野だけではなく、サークル活動や課外活動にも注力しました。

国際交流サークルに所属し、大学に来た留学生のサポートをしました。文化や考え方の異なる海外の方との交流により視野が広がりました。また、大学3年次には「おりもの感謝祭一宮七夕まつり」のミス織物クイーンとして活動しました。テレビ出演やトヨタスタジアムでの挨拶など120ヶ所でPRをし、一宮市を盛り上げました。

様々な経験から、新たな発見や人との出会いを得ることができました。これから社会人になりますが、様々なことに興味や関心を持ち続け、精一杯仕事に励みたいです。

講評：学業成績が非常に優秀であり、論文コンテストやグローバル人材育成プログラムでも優秀な成績を修めた。学部生で勉強グループを立ち上げるなど、その自主的な学習態度や知的好奇心、そして強いリーダーシップは、次世代のリーダーとしての素質を感じさせる。ゼミ活動の一環で、ビジネスプランコンテストに挑戦し、ゼミのリーダーとしてマーケティング事業を立案し、チームの団結力を高めた。今後は、社会人として、さらに活躍することが期待される。

山田 明里 情報文化学部 自然情報学科 4年

知見を広げる

私は情報学を学び始めたときに様々な他分野との結びつきに気付かされました。このことから幅広い知識を持つ必要性を感じ、知見を広げることを意識してきました。

学修においては、専攻分野の勉強だけでなく他専攻の講義も多く履修することで、知識の幅を広げていきました。加えて、課外活動にも積極的に取り組みました。あかりんご隊やTEDxNagoyaUの実行委員としてイベント主催活動に携わったことで、企画力や説明能力などが身につきました。これらの経験は、研究に取り組む際にも大いに役立ちました。

大学卒業後は大学院に進学します。そのため、国際的な活動も視野に入れた語学学習に加えて専

門知識・技術をさらに深めていきたいと思います。また、現在参加している、ICTを用いて農業への新規参入を促進するプロジェクトに貢献し、日本の農業分野における労働不足を解消に繋げたいと考えております。

講評：極めて優秀な学業成績を収め、自然情報学科では毎年成績優秀者の表彰を受けており、意欲の高さと勉学に対する一貫した真摯な姿勢は、他の学生の模範となっている。卒業研究では、プログラミング言語を自主学習するなどの努力により優れた成果を挙げ、企業との共同研究も進め、共同で特許出願を予定しており、実用面において高く評価されているだけでなく、今後は国際学会等での発表も予定している。大学院進学後も研究をさらに発展させ、国内外での活躍が期待される。

中島 弘瑛 理学部 化学科 4年

学び続ける姿勢を大切に

私は、「自然がどういう仕組みで成り立っているのか」ということを知りたくて、大学生生活の4年間、自分が興味を持った科目を積極的に学ぶようにしてきました。その中で、私たちが当たり前に見えるようなことも、見方を変えるだけでそれまで得られなかった知見が得られる、ということを知りました。私も、自分にしかできない方法を編み出して自分にしか見ることのできない世界を見てみたい、と思うようになりました。

現在私は、超分子化学という比較的新しい学問分野の考え方をもとに、新しい分子磁性材料をつくるための研究を行っています。研究には化学の知識だけでなく、磁性に関する物理学の知識も必要となるので、今後も自分の専門である化学を深く学びつつ、他に興味のある学問も積極的に学ぶ姿勢を貫いていきたいです。将来は大学、および大学院での経験を生かして、研究者あるいは技術者として社会に貢献したいと考えています。

講評：常に知的好奇心を純粋に追求し、専門科目以外も幅広く履修し優秀な成績を収めた。新しい金属錯体分子の合成と物性探索に関する卒業研究では、効率的な実験方法で研究を前進させ、その成果は多くの研究者からも関心を寄せられている。セミナーにも積極的に参加し、研究室内のアカデミックな雰囲気醸成を先導した。また、アカペラサークルにも所属し、熱心に活動に取り組んだ。大学院進学後は、海外の大学での共同研究も予定しており、研究者としての活躍が大いに期待される。

内藤 裕 医学部 医学科 6年

「経験」と「タフさ」

医学科のカリキュラムは、実習期間の拡充などもあり、年々学生にとってハードなものになっています。しかし意外と、自ら枠外に踏み出せば、カリキュラムに縛られない大きな体験をできるのだと感じます。私は、「医学生は淡々と、他人と同じように、大学のカリキュラムを消化するものだ」という（学部内に蔓延しているように見える）考え方に縛られず、自分にしかできない多くの体験をしたいと考えてきました。

なぜ「体験」を私が重視したかということ、体験の多さが自信、そして精神的な「タフさ」につながると考えるからです。体験に裏打ちされた「タフさ」を得れば、躊躇してしまうようなさらなる挑戦もできると信じています。

4月からは、東京都内の病院で働く予定です。社会人1年目を控えて、不安なことも多いですが、地に足をつけつつも、背伸びすることも忘れない、という心構えで頑張っていきたいと思えます。

講評：優秀な学業成績を収めているが、とくに基礎医学セミナーにおいては、教員と一体となつてともにゴールを目指す、主体的かつ創造性に富む「共同研究者」として熱心に研究に取り組んだ。その研究態度は、一方向的な指導の対象を超えており、まさに他の学生の模範となっている。国内外の学会・研究会等で優れた研究発表を行い、賞も獲得している。また、後輩に対しても親身な助言・指導を行い、人望も厚い。豊かな将来性を感じさせ、今後の活躍が大いに期待される。

西尾 祐哉 工学部 電気電子情報工学科 4年

国際的に活躍する研究者を目指して

私は、カーボンナノチューブを用いた電子デバイスの研究をするために名古屋大学に入学しました。現在は、ナノ電子デバイス研究室に所属し、カーボンナノチューブを用いたストレッチャブルデバイスに関する研究を行っています。

従来のストレッチャブルデバイスは駆動電圧が高い・伸縮性が低い・伸ばした時に特性が変化してしまうという問題がありました。そこで、卒業研究では、これらの課題を同時に解決するための新規デバイス構造を考案しました。その研究成果をもとに、特許出願を行い、国際学会で口頭発表を行いました。また、国際共同研究をしたり、学術論文を執筆したりする機会にも恵まれました。これらの活動は今後の研究生活に役立つ大変貴重な体験になりました。

私は、4月からは大学院に進学します。今後は、国際的に活躍する研究者になることを志して、より質の高い研究を行えるように努力していきたいです。

講評：学部の授業ではほぼすべての科目でS評価という極めて優秀な学業成績を収め、研究インターンシップへの参加、海外との共同研究、自身の研究成果による起業など、意欲的に活躍している。難度の高い研究課題にも積極的に取り組み、その姿勢は他の学生にも波及し、研究室全体が活発化した。すでに複数の論文の発表、特許出願を行っており、優れた研究成果を挙げている。英語での質疑応答も申し分なく、国際会議での発表で受賞している。今後も、さらなる研究の発展が期待される。

小島 なつみ 農学部 応用生命科学科 4年

興味をもって学ぶことで得られた力

身の回りの漠然と起きているかのような現象をすべて理論立って説明できる化学に興味をもったのは高校時代でした。大学に入学後は、特に有機化学に魅力を感じ、講義ノートや教科書を常に持ち歩き活用することで、自分の中にしっかり根付かせることができたと思えます。

現在は「星型 dendrimer に基づく ナノカプセルの創出」というテーマのもと、大学で習得した知識を活かし、薬物送達システムへの応用が期待できる新規の薬物キャリアの合成を試みています。新規化合物を扱うため、思い通りにいかないこともあります。原因を分析し、試行錯誤を繰り返しています。大学生活を通して問題解決力がより一層強化されたと感じています。

4月からは大学院に進学します。興味や疑問を自主的な模索や工夫につなげることで、新たな着

想の種としていきたいと思います。そして、将来は社会に貢献できる研究者になりたいと考えています。

講評：卒業要件にかかるすべての科目で、SとA評価が占める割合が学部学生で最も高く、優秀な学業成績を収め、教員の記憶に残る模範的な受講姿勢であった。卒業研究では、打てば響くような明快な応答で指導教員と議論し、自発的に集中して効率的に実験を進め、短期間で優れた成果を挙げ、その成果を学会で発表することが決まっている。論理的思考力、課題解決能力、実行力を兼ね備え、また英語にも堪能で、将来有望な研究者として成長することが大いに期待される。

正課外活動への取り組み 部門 受賞者 受賞者のことば・講評

岩 田 祥 子 工学研究科 土木工学専攻 博士前期課程 2年

カヌースラローム競技への取り組み

私は大学の部活動でカヌースラローム競技を始め、大学院進学後も愛知県カヌー協会所属の選手として個人で競技を続けてきました。矢作川、揖斐川、三好池で練習をし、陸上トレーニングも取り入れつつ、限られた時間の中で効率良く練習出来るように工夫しています。学部ではカヤックに乗っていましたが、二年前から国体種目になったのをきっかけに、カナディアンカヌーに挑戦しました。

多くの方にご指導、応援していただき、平成30年10月に福井県で行われた第73回国民体育大会に愛知県代表として出場し、成年女子カヌースラロームカナディアンシングルで入賞する事ができました。

卒業後もカヌーを続け、より良い成績を残せるよう努力していきます。カヌーは常に新しい発見があり、日々を充実させてくれます。これからは今より更に練習時間の確保が難しくなると思いますが、楽しむ事を忘れず、仕事と趣味を両立したいです。

講評：学部学生であった時からカヌー競技を始め、大学院進学後もカヌー選手として競技生活を続ける傍ら、カヌー教室や技術指導の講師として小中学生の指導にも当たっている。平成30年10月に開催された第73回国体（福井県勝山市）においては、愛知県代表として成年女子カヌースラロームC-1に出場して入賞を果たし、愛知県のカヌー競技総合優勝（天皇杯）獲得に貢献し、その活躍は本学の名誉を高めた。今後は社会人としてさらに研鑽を重ね、いっそうの活躍を期待する。

名古屋大学電情組

人々に寄り添った機器の開発

名古屋大学電情組は、電子機器および情報通信システムの開発を行っております。今日の情報社会では膨大な情報が人々と十分に共有されず、その情報を活用できるのは高度な専門知識を持つ一部のの人々に限られております。そのような状況を打開し、誰もが容易に所望の情報を活用できる新たな情報社会の構築を目指して活動を始めました。活動の中で、洗濯物の乾湿状態を監視し、その

結果を利用者に伝えるという電子情報通信システムを開発し、そのアイデアと技術を公開するために応募したコンテストで賞を頂くことができました。

我々は今年度からの進路はそれぞれ異なるのですが、今後も継続して社会課題に挑戦し、その解決を通じて社会の発展に寄与したいというのが共通の意志です。また、将来再び集まり、社会で得た知見を活かして世界中の人々の生活を豊かにするような製品を作りたいと考えております。

講評：電子工作を通じて、人々の生活に資する新たな価値を創出することを目的とし、人々に寄り添った電子機器及び情報通信システムの開発を行ってきた。その技術の創造性及び有用性が高く評価され、Raspberry Pi（ラズベリーパイ）コンテストで Energy Eye 賞を受賞した。その後も、日経トレンドエキスポでの展示、企業による広報、またメディアによる報道など、大きな反響を呼び、本学の名誉を高めた。今後は、社会人として、社会的課題の解決によるいっそうの活躍を期待する。

留学生・国際交流支援学生団体ヘルプデスク

名古屋大学における国際交流の充実に向けて

私たち「ヘルプデスク」は交換留学生を中心とした留学生に対して学生寮や大学における生活の支援、異文化交流促進の活動を行う大学公認の学生団体です。約30人の日本人学生・留学生で構成され、国際教育交流センターの職員・先生方と力を合わせて活動しています。生活の支援では、留学生の入寮受け入れ支援と大学生活における質問の対応を行なっています。来日して間もない留学生の不安や不便を解消するため、受け入れの事務的手続きに加えてスーパーや学食の紹介をします。また各学期最初の2週間、国際棟1階のラウンジにヘルプデスクを設置し、留学生からの質問や相談に対応します。また日本人学生との国際交流促進活動にも力を入れており、花火大会やハロウィンパーティーなどのイベントを定期的で開催しています。今後は、団体の周知を通してより多くの学生に国際交流に関わってもらうこと、現在行なっている活動の更なる充実に取り組みます。

講評：来日直後の留学生を対象として、国際寮での受け入れ補助、大学での生活補助、日本人学生との異文化交流を促進するために様々な企画を実施した。メンバーは、留学生と日本人学生との親密な交流を育み、大学の一部業務も支援し、お互いを刺激し合う国際コミュニティの形成に大きく貢献している。平成17年の発足より、学生が自主的に、また継続的に活動を行って来ており、その成果は、国際教育交流センター長顕彰でも毎年表彰されている。今後も、いっそうの活躍を期待する。

國 枝 真 衣 工学部 マテリアル工学科 2年

英語を活かし、工学分野への貢献を目指して

私は昨年6月に行われたホノルル市長杯全日本青少年英語弁論大会に出場し、最優秀賞をいただきました。スピーチのテーマは主催者の指定で、「変化する地球環境と人類の未来」でした。私はミツバチが絶滅の危機にあることを話しました。ミツバチの世界的激減の原因の1つが農業であること、これによって蜂は方向感覚を失い、巣に戻れなくなること、蜂の受粉機能を失った人間は2年も持たないと言われていることを伝えました。私たちの意図的でない選択や判断、そして無知によって地球が危険な状態にあることを訴えました。

優勝後は副賞としてハワイ大学短期留学の機会及び、ホノルル市長表敬訪問の機会をいただきました。現地の文化を学ぶと共に、現地の大学生と交流し、常に英語を使用することで自分の英語力向上につながりました。

今後、英語は道具として、様々な価値観の人を理解できる人間となり、工学の分野に貢献できる人間になりたいです。

講評：「変化する地球環境と人類の未来」をテーマとする、第48回ホノルル市長杯全日本青少年英語弁論大会大学生の部において、東海北陸ブロック代表として、絶滅の危機にあるミツバチを題材に優れたスピーチを行い、最優秀賞を受賞して本学の名誉を高めた。ハワイ大学への短期留学、ホノルル市長表敬訪問といった貴重な体験を経て、現地の文化を学ぶとともに、英語力の向上に邁進した。今後は、さらに研鑽を重ね、その英語力を活用して国内外でのいっそうの活躍を期待する。